

とりわけ議論いただきたい視点

【何のための京都観光か】

○ 改めて、観光にはどのような意義や効果があるのだろうか。

【未来の京都のために、観光が果たすべき役割とは】

○ 京都観光が目指す姿のイメージは右図のとおり。次期計画では、「持続可能な観光」から更に踏み込み、「都市の魅力・活力の向上につながる観光」を目指すこととしたいと考えているが、改めて、京都観光が果たすべき役割とはどのようなものだろうか。

○ 当該目指す姿の実現に向けては、観光客、観光事業者・従事者等、市民が、対立ではなくお互いが尊重しあえる関係を築く必要がある。どうすれば更に良好な関係づくりが進むだろうか。

○ 市民ではないが地域とさまざまな形で関わる観光客(「0.1市民」※、関係人口)も存在する。観光客に京都により深く関わってもらい、また、観光客、観光事業者・従事者等、市民が境界を越えて交ざり合うためには、どうすればよいだろうか。

○ そして、京都観光に関わる全ての人々と共に、多様で奥深い京都の本質を追求し、将来に継承していくに当たり、どのような課題があり、どのような取組が求められるだろうか。

【誘客に当たって】

○ 日本人観光客は、全国トレンドと同様に中長期的に減少基調にあるが、京都市を訪れる観光客のうち約8割は日本人で、このうち大部分はリピーターであるなど、京都にとって大切な存在。引き続き日本人観光客から選ばれ続けるためには、どうすればよいだろうか。

○ また、異なる文化的背景を持つ様々な国・地域の外国人観光客に、より奥深い京都の魅力に触れていただくためには、どうすればよいだろうか。

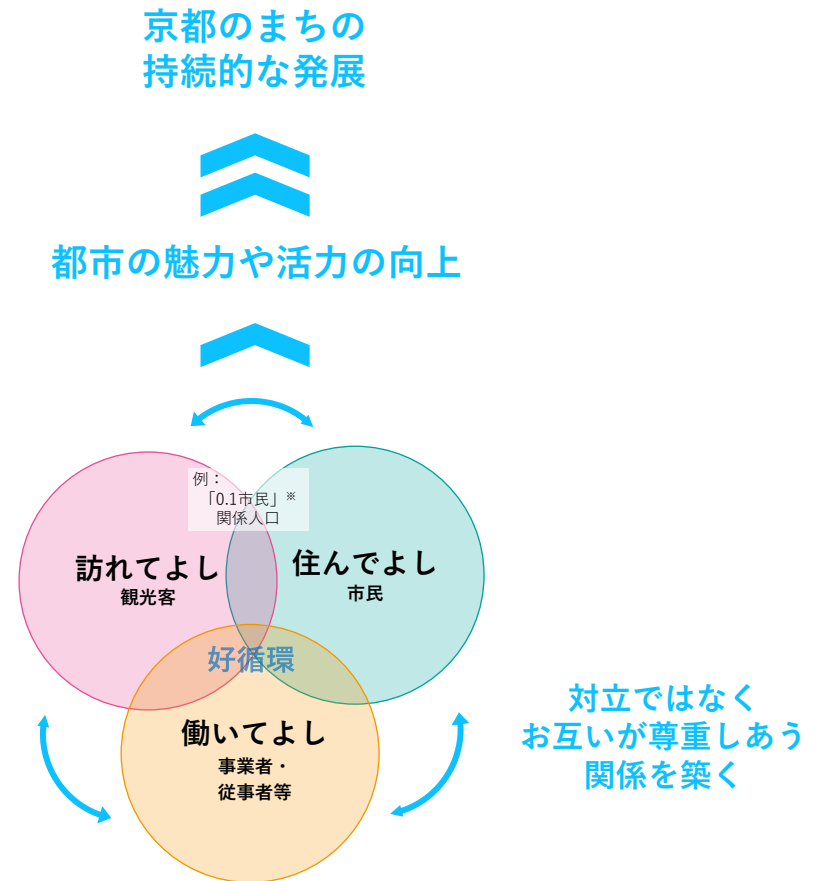
【観光課題等への対策】

○ 現在、局所的な混雑・観光マナーの問題等、種々の課題が存する。地域や業界団体等との連携の下、今後、どのように係る課題に対応していけばよいだろうか

【計画の推進】

○ 次期計画の進捗を管理するために、どのような指標・目標値がふさわしいだろうか。

< 京都観光が目指す姿のイメージ >



【観光客の定義】

観光客とは、観光目的だけでなく、市外在住で通勤、通学以外の目的（ビジネス、買物、イベント、観劇、スポーツ、友人・知人訪問等）で京都を訪れた全ての人を含む。

出典）「京都観光総合調査」（「観光入込客統計に関する共通基準」（観光庁）に基づく統計調査）

※ 市民ではないが京都に薄くつながっている人（多層的なつながり）
（京都市未来共創チーム会議（次期総合計画「長期ビジョン」（仮称）検討会議）参照）